

### マツバと繋がった小さな命

高崎山では、毎年5月から8月にかけて、たくさんの赤ちゃんザルが生まれます。特に6月以降はサル寄せ場のあちこちで、かわいい赤ちゃんザルを目にすることができ、今年も多くの赤ちゃんザルが6月以降見られていました。

そのようななか、6月29日の出来事でした。B群の大半のサルが山に引き上げる午後4時55分頃、1頭の迷子の赤ちゃんザルに目が留まりました。しばらくすると、その赤ちゃんザルは鳴き声を上げることもなく、山の奥へと姿を消してしまいました。

翌日、迷子の安否を心配していたところ、5月31日に出産をしたB群に所属する「マツバ」という名前のサルが、2頭の赤ちゃんザルを抱いて山から下りてきました。どうやら、前日の迷子の赤ちゃんを引き取ったと思われます。ただ、実の母ザルは誰なのかわかりません。

それから「マツバ」の2頭の子育てが始まりました。授乳も我が子と分け隔てなく、2頭同時にしています。ちなみに、今から6年前、B群に「カラオケ」という名前の母ザルが育児放棄の赤ちゃんザルを引き取り、2頭同時に子育てをして当時話題となりました。その子たちは2頭とも無事に育つことが出来ました。

「マツバ」が迷子を引き取ったことで繋がった小さな命。これからも、「マツバ」の子育てと、2頭の赤ちゃんザルの成長を見守っていきたいと思います。



2頭の赤ちゃんザルを抱くマツバ



# MT Takasakiyama C Member's Club

## [高崎山メンバーズクラブ] 会報



国立公園  
高崎山  
自然動物園  
2021.秋号  
No.104

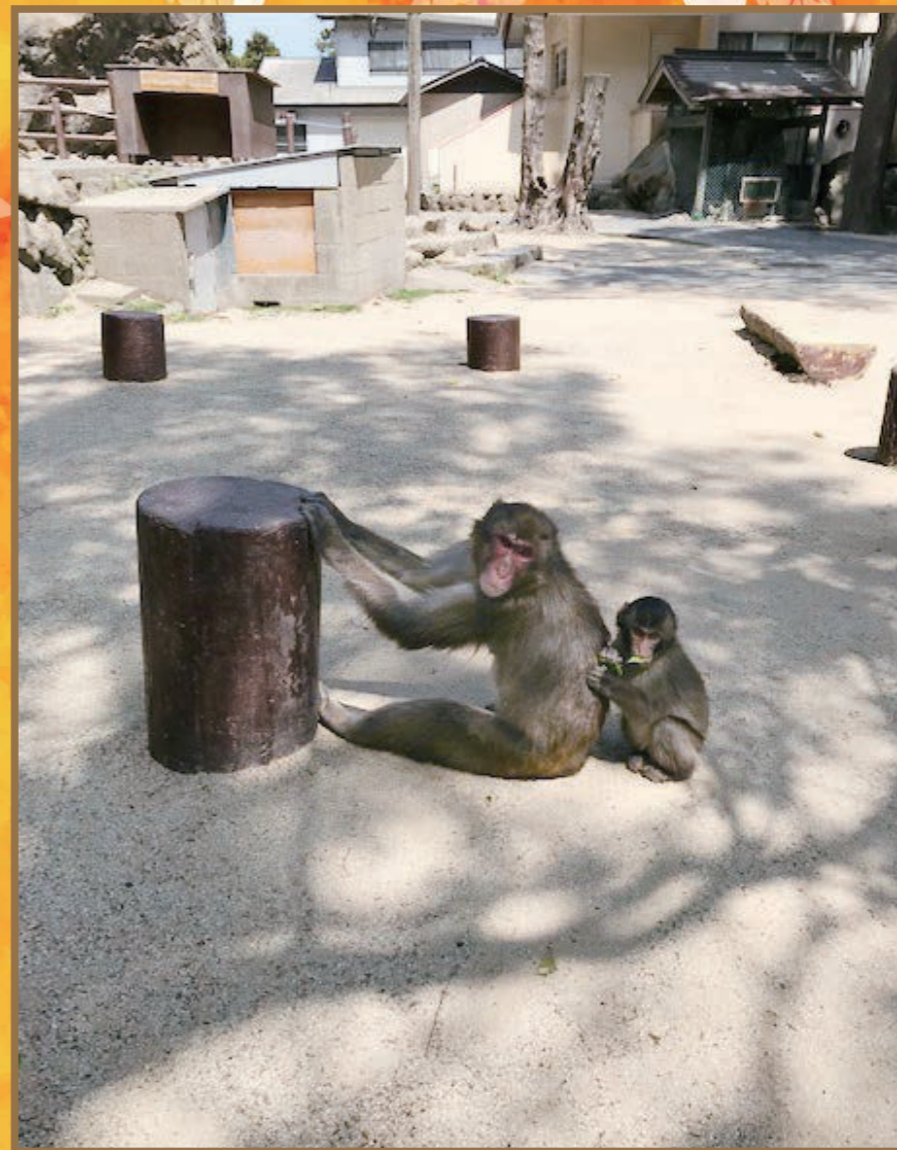
ご意見・ご要望をおまちしています。



国立公園  
高崎山自然動物園

〒870-0802 大分市神崎3098-1  
TEL 097-532-5010 FAX 097-536-2500

E-mail / info@takasakiyama.jp  
http://www.takasakiyama.jp/



写真提供：高崎山メンバーズクラブ会員／一色 麻里様

### 写真募集中!!

皆さんの撮影したステキなお写真で会報誌の表紙を飾ってみませんか。なお、お写真・データはお返しできませんので、ご了承ください。



スタッフブログ、フェイスブック、Instagram、Youtubeで高崎山自然動物園のサルの出来事を紹介しています。



## 何を思う？ B群のオスザルたち

### 高崎山史上初、メスザルが第1位に就いたB群の行方

2021年7月30日にヤケイ(メス)が第1位に就任したことにより、少しずつB群のオスザルたちに変化が起きています。

まず、第2位に降格したナンチュウ(32才)は今までの威厳がなくなり、私たちスタッフにとっては親しみやすい存在となった気がします。年齢的なものもあるかもしれませんが、性格も丸くなり優しくなったように思えます。

第3位に降格したマクレーン(28才)は餌場の端で生活することが多くなり、以前に比べると存在感がなくなったように感じます。

第4位に降格したゴエモン(29才)はB群の生活に嫌気がさしたのか、B群を離れC群と行動を共にするようになりました。このままC群に移籍するのか注目されます。

この上位のオスザルとは対照的に第7位ゴロー(15才)や第8位ハトムギ(19才)は、ヤケイとの距離をあげ、独自の路線を歩んでいるように思えます。第9位のオオムギ(20才)は逆にヤケイに接近し、毛づくろいを行ったり、一緒に餌を拾うといった他のオスたちにはみられない面白い行動をしているザルもいます。

今後のヤケイを中心としたB群のオスザルたちの動きに注目していきたいところです。



## サルの子育て ~誕生から3か月~

### 高崎山の子育て事情から考えること

高崎山のサルは5月に出産シーズンを迎え、8月の終わりまでに例年B・C群合わせて100頭から150頭程の赤ちゃんザルが生まれてきます。ただ、生まれた時の状況等で育たないこともあるため、全ての赤ちゃんザルが大人になるわけではありません。

赤ちゃんザルは、生まれて数日で目が見えるようになり、徐々に歩けるようになると、母ザルの周囲から少しずつ行動範囲を広げていき、生後1カ月もするとサル寄せ場の奥にある「おさるの保育園」で同じ年の赤ちゃんザルと遊び、「サル社会」について学び始めるようです。

毎年このことですが、出産した母ザルたちの、その子育てを観察すると各々違いが見えてきます。初産の母ザルは、自分の弟妹など小さなサルのお世話をしたことはあるものの、「出産」「授乳」「育てる」という行為は初めての経験で、出産後にお乳をうまく飲ませることができなかつたり、赤ちゃんザルを上下逆に抱えてみたりします。その光景を目にする私たちは思わず初産の母ザルに「違う」「もう少し」と声をかけたり、ドキドキハラハラさせられます。

また、初産した母ザルの多くにみられるのは、赤ちゃんザルを片時も胸元から離そうとしない行動です。その様子から初めての経験で必死になって子育てをしようとしている母ザルの様子がうかがえます。

何度か出産を経験している母ザルは、育児も手慣れたものです。慣れ過ぎているためか、出産当日のまだ目の見えない、母ザルがいないと動くことすらできない赤ちゃんザルを地面に置き、歩かせようとする、驚くような行動をする母ザルもいます。また、年子で出産することもあり、背中に上の子、胸に赤ちゃんザルを掴ませ闊歩する母ザルには力強さを感じます。

ヒトの場合、出産や子育ては、育児本や親など周囲を頼ることができたりもしますが、サルは出産から子育てまで誰の手も借りず誰から教えられることもなく、本能で全てを行っているところに、彼女らの凄さを感じます。



生まれた当日の  
赤ちゃんザルと母ザル



おさるの保育園でお友達と遊ぶ赤ちゃんザル

高崎山では四季折々に季節毎の生態を観察でき、家庭や学校等、通常の社会生活では見聞きすることのない体験が出来ます。例えば、うまく育たずに亡くなってしまった赤ちゃんザルを母ザルが何日も大事に持ち歩き、毛づくろいなどお世話をする姿を見ると、「命は大切」ということをサルから教えられていると感じます。また、お互いを思いやる「気遣い」のようなものを感じることもあります。サルを見ているとサルから考えさせられること、気づかされることが多くあります。

ぜひ高崎山のサルから様々なことを学んでみてください。